

『彩られる杜』

美しい紅葉の事を錦繡きんすいというすばらしい言葉で表します。モミ・ツガなどの深い緑の針葉樹と、紅や黄色あるい

期待したほど美しくなかつたりする事もあります。美しく紅葉するには、気候との微妙な関係があるのでしよう。葉が赤くなる紅葉、黄色くなる黄葉、どちらも「こようよ

秋になると、それまで活発に行っていた光合成が弱まってくる。すると樹木は、葉と茎との接点にコルク質の離層と呼ばれる組織を作り、今まで行ってきた葉と茎との交流を止めてしまいます。この離層は、落葉後の寒さから身を

うしてアントシアンが生成されるのかは、まだ解明されていません。落葉する前の一時に杜を彩る紅葉は、非常に美しく華やかに映りますが、一面哀愁めいたものも感じさせます。

神 社 の 杜 (三)

ビクターセンター所長 片柳 茂生

は茶色に葉の色を変化させた落葉広葉樹が織りなす神社の杜には、この言葉が当てはまります。

九月の中旬に、まずケヤキが色を変え始め、トチノキやホオノキがそれに続きカエデの仲間、ウルシやヤマザクラの赤などで杜全体が彩られ



守る組織でもありません。また、葉にはクロロフィル(緑色の色素)とカロチノイド(黄色の色素)が、若葉の頃からすでに生成されています。クロロフィルの活動が盛んな夏までは、カロチノイドが目立ちません。しかし、離層が形成されるとクロロフィルは分解され、残ったカロチノイドが浮かび上がり、葉は黄変します。

あ と が き
暑かった長い夏に終りをづけ、きまぐれ雨の秋になり、今は暑い日がなつかしく感じられます。カンタンの鳴き声が、心にしみわたり高雅な音色が、人をやさしい気持ちにさせるのでしょうか。人恋しい秋色の御岳山上より三号をおとどけたいします。「武州みたけの信仰」「御嶽神社宝物シリーズ」「神社の杜」に、新たに「神社参拝記」を加えました。四号の発行は三月予定です。皆様方のご講読にあわせご寄稿を賜りたく、お願いいたします。(片柳記)

ます。

美しく紅葉する条件として、まず夏の天候が良く、暑いこと、それと秋の寒暖差が必要と言われています。良い条件がそろったと思われた年でも、

う」と発音しますが、それぞれ色が変化する仕組みは違います。葉は、春から夏にかけて光合成を行い、それによって得

平成六年十一月一日発行
〔非売品〕
編集 武蔵御嶽神社
印刷 (株)成和印刷
〒043870(八五〇〇)

た養分を茎に送っています。

れる事よっておこります。ど

表紙写真 埼玉県和光市 末棟 義彦